



第99回 秋のすぎなみ区民歩こう会

西部丘陵から小田原城まで

満開のバラと 歴史・文化が息づく自然豊かなハイキングコース



2018年10月28日(日) 雨天決行

- ◇ 集合場所 杉並区役所(中杉通り側)
- ◇ 集合・受付時間 長いコース、短いコースともに 午前7時
- ◇ 解散場所 杉並区役所(中杉通り側)
- ◇ 解散予定時間 短いコース 午後5時30分頃、長いコース午後6時頃
- ◇ 参加費 3200円(バス代、傷害保険などを含む)

《コース》 起伏のあるコースです。2つのコースから体力に合わせてお選び下さい。

★短いコース(約8.5km 歩行所要時間:休憩・昼食・バスでの移動時間含め約4.5時間)
 諏訪の原公園(スタート)→小田原フラワーガーデン→久野古墳→いこいの森→わんぱくらんど→(バス移動)→からたちの花の小径→城山公園・大堀切→小田原城(ゴール)

★長いコース(約10.5km 歩行所要時間:休憩・昼食を含め約5時間)
 諏訪の原公園(スタート)→小田原フラワーガーデン→久野古墳→いこいの森→わんぱくらんど→毘沙門天→からたちの花の小径→城山公園・大堀切→小田原城(ゴール)

《対象》 区内在住・在学・在勤で全行程を歩ける方(小学生以下は保護者同伴)

《定員》 全コースで200名 申し込み多数の場合は抽選 二重申し込みは無効

申込方法:通常はがき(往復はがき不可)に、「秋のすぎなみ区民歩こう会」と明記し、

希望コース、参加者全員の氏名(フリガナ必須)、性別、年齢、住所、電話番号(緊急時の連絡のため必須)同一コースであれば、4名まで連記可。代表者に○印、下記の宛先へ。

《 締切り 10月5日(金) 必着、抽選結果は10月11日頃発送 》

注意:持ち物やコースの詳細は、参加者決定後にお知らせします。荒天の場合は、コース変更あり

申込み後の長短コースの変更は不可。

《申込・問合先》 (公財)杉並区スポーツ振興財団

〒166-0004 杉並区阿佐谷南1-14-2 みなみ阿佐ヶ谷ビル8F

電話 03-5305-6161 (受付時間 平日9時~17時)

主催 公益財団法人 杉並区スポーツ振興財団 後援:杉並区
 主管 ;すぎなみ区民歩こう会実行委員会



小田原といえば、小田原城、かまぼこ、提灯、梅干し、箱根駅伝などを思い浮かべる方も多いと思いますが、今回のコースを歩けば、そんな小田原に新たなイメージが加わることでしょ

う。背後に丹沢山系を擁し、相模湾に臨む小田原は、温暖で風光明媚な豊かな風土に恵まれ、古くから栄えてきました。アップダウンのあるコースですが、それも気にならないくらいに見どころ満載のハイキングコースです。小田原の魅力を満喫するこのコースを皆で歩きましょう。お昼の休憩場所でもあるわんぱくらんどは、ポニー、子供列車などお子さんにとっても楽しい場所です。是非ご家族ぐるみでご参加下さい。



① 午前中(短いコース・長いコース共通)

小田原市街を一望する諏訪の原公園からスタート、天気が良ければ富士山や丹沢山系の眺望も楽しめます。満開のバラが咲き誇る小田原フラワーガーデンを経て、久野古墳(15号墳)を見学し、しばらく続く下り坂の途中にある、隠れキリシタン伝説の観音堂で休憩します。その後バス道から分かれ、

久野川を渡り、留場集落から少し上りになります。みかんが実る里山を歩きこいの森入口へ。清流の坊所川沿いの道をたどると、わんぱくらんどに到着、昼食タイムです。班ごとに昼食を取り、交流します。大つり橋、ポニー、子供列車などもあり、お子さん連れで賑わっています。

② 午後(短いコースは一部バス移動)

昼食後、わんぱくらんど隣の辻村植物園から、里路を緩やかに下り、石垣の石を切り出す際に血を流した岩を鎮めるため建立されたとの伝説が残る水之尾毘沙門天を経て、バス道をしばらく歩くと、白秋童謡のからたちの花の小径に出ます。この小径からは丹沢の山並みか



ら相模湾までを一望する絶景を堪能できます。小径を抜けると、大堀切に。戦国時代に秀吉からの攻撃に応戦するため北条氏が築いた要害で、現在は国指定史跡となっています。

ゴールの小田原城は目前です。柴を背負い、読書に耽る二宮尊徳像を過ぎると間もなく天守閣。歴史を偲ぶ、バラエティーに富んだ、見どころ満載のハイキングコースです。

小田原と聞けば何を連想しますか。お城、ちょうちん、蒲鉾、金太郎、箱根駅伝、……。これらに思いをよせ、豊かな自然、歴史や文化の香りを感じながら、小田原周辺の丘陵地帯を散策しませんか。起伏に富んだハイキングコースです。一部勾配のきつい所もありますが、ゆっくりペースで楽しく歩きましょう。途中野生の猿やイノシシに出会うかも。ビューポイントでは、眼下に市街地、相模湾、丹沢山系の眺望は、きっと心が癒されることでしょう。



トロピカルドーム温室

1. 県立おだわら諏訪の原公園・フラワーガーデン

諏訪の原公園：65 ha の都市公園。平成 18 年（2006）一部開園。全長 169 m のローラー滑り台、展望広場にある大型遊具が人気。展望台から眺める丹沢山系の眺望は特に素晴らしい。

フラワーガーデン：花と緑のオアシス「フラワーガーデン」4.2 ha は平成 7 年（1995）オープン。

メイン施設のトロピカルドーム温室（隣のごみ焼却施設の余熱利用）内は、300 種の熱帯・亜熱帯の果実や花が常時楽しめる。敷地内には多くのバラや 200 種、400 本余の梅林があり壮観。花ごよみ、10 月は「秋ばら」



久能 15 号 古墳

2. 久能古墳群・龍泉寺観音堂

久能古墳群：古墳時代後期の円墳が 120 基程ある古墳集落地。1 号墳は百塚の王といわれ、円構を含めて直径 40 m、足柄豪族の墓。4 号及び 15 号墳は復元されて、見学出来る。

龍泉寺・観音堂：開山は 1555 年、本尊は十一面観音。左に薬師如来と十二神将、右に隠れキリシタンの伝説もあるマリア観音、石地藏を安置。

境内には、寒念仏供養塔が 9 基並んでおり、非常に珍しい。



わんぱく大橋(吊り橋)

3. いこいの森・わんぱくらんど（こどもの森公園）

いこいの森：豊かな森、清流、きれいな空気など、自然に接しながらバーベキュー、木工芸体験、森林浴などを楽しめる。

わんぱくらんど：「いこいの森」と「辻村植物公園」に隣接し感動と発見を遊びに取入れる事が出来る公園。平成 22 年開園。起伏に富んだ地形を生かした豊かな自然環境の中で、子供達が体を動かして、自由にのびのびと遊ぶ事が出来る。

公園内には、子供達に大人気の「ロードトレイン・わくわく号」や「こども列車・なかよし号」に乗ったり、動物達に触れたり乗ったり出来る。また、スリル満点の 67 m 揺れる吊り橋や小田原城アドベンチャー、ターザン広場等、魅力的遊び場満載。

4. 辻村植物公園

明治 40 年代、地元の素封家辻村氏によって開かれた梅園農園が前身。当時は、西洋草花を主に扱う先進的な農園。諸外国から樹木の種子を取寄せて、庭園や公園樹木の試作を行う。

今でも園内には、地中海原産の「ホソイトスギ」やオーストラリア原産の「ユーカリ」、世界の草花など、ちょっとした異国情緒にひたれる。園内の主力植物は 560 本の梅園、樹齢 90 年の木も立派な花を咲かせている。公園面積 4.7 ha。平成 2 年開園。



辻村植物公園ホソイトスギ



毘沙門天



からたちの花



小峯御鐘ノ台大堀切



報徳二宮神社



小田原城

5. 水之尾の毘沙門天

水之尾毘沙門天は、城の石垣の石を工事中、石から血が流れだし、それを鎮めるために建立された。毘沙門天とは、主に武神として知られる仏様。鎧を着こんだ武将姿が一般的で、武将の神であるイメージが強い。戦国武将上杉謙信が戦いの神として信仰し、自らを神の生れ変わりとして信じていた。旗印の「毘」の文字は有名。七福神の一人として信仰されている。

6. からたちの花の小径

明治17年(1885)福岡県柳川で生まれた北原白秋は、大正7年(1918)から大正15年(1926)までの8年間を小田原で過ごした。白秋は散策しながら、生涯で創作した童謡1200編のうち、約半数はこの地で作られている。

白秋の代表作、「からたちの花」は幼児期の追憶や水之尾道で見たからたちの花が縁で大正13年(1924)の作(作曲山田耕作)。市は当時の水之尾道の一部を、白秋童謡の散策路、「からたちの花の小径」として整備。

小田原時代に作られた主な童謡:「雨」、「赤い鳥小鳥」、「あわて床屋」、「ちんちん千鳥」、「揺籃のうた」、「砂山」、「からたちの花」、「かやの木山の」、「待ちぼうけ」、「この道」等

7. 小峯御鐘ノ台大堀切

戦国時代、北条氏が秀吉の攻撃に対し、小田原城防衛のため築いた堀の中で、その形を今日まで伝えている重要な遺構。最大幅25m、高低差12mに及ぶ巨大な堀跡を散策出来る。国の指定史跡

8. 報徳二宮神社

江戸時代後期の農政家、思想家である二宮尊徳(にのみや・たかのり/そんとく)を明治27年(1894)祀った神社。尊徳は報徳思想を唱えて、儉約によって農村を立直し、各地の農村の復興を指導。勤勉、努力を藩主に認められ、武士に取立てられる。勤勉の姿勢が生徒の手本と、各地小学校に銅像が建立された。

9. 小田原城

天正18年(1590)秀吉に滅ぼされるまで、北条の祖、早雲から5代の居城。戦国時代下剋上のはしりで勢力を伸ばした早雲(1432~1519)は、司馬遼太郎の小説「箱根の坂」で紹介。小田原評定は戦闘方法を何回も評議したが決まらず、ただ日々を過ごす故事。何時までも纏まらない会議、相談を指す。明治まで、270年間、徳川家臣大久保氏城主、(途中70年間春日局の孫、稲葉氏)。3層4階の城は、明治3年(1870)廃城、昭和35年(1960)江戸時代末期の外観姿に復元。城内動物園「日本最高齢ぞうのウメ子」お別れ会に5000人来場。